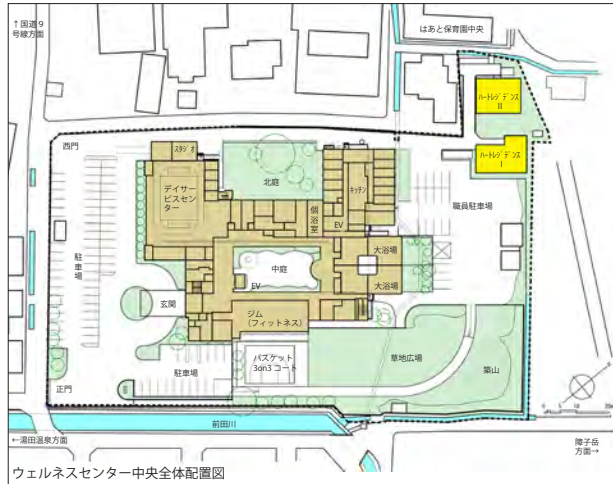


②建物の保存修復再生・設計プロジェクト

■山口・ウェルネスセンター中央・コンバージョン計画・設計監理 [社会福祉法人青藍会] 2020-22

山口・湯田温泉に2022年11月にオープンした「ウェルネスセンター中央」は宿泊施設・旧「かんぼの宿湯田」（敷地約1.3ha、建物延床面積約7千㎡）を青藍会グループによって、1階は大規模サービス、フィットネスクラブと天然温泉大浴場、そして2・3階と1階の一部は住宅型老人ホーム計80室にコンバージョン、屋外はバスケット3on3コート、広場、草地、遊歩道等が整備され、敷地全体が地域の世代間交流施設となっている。そして旧住宅棟（2棟）も海外実習生用シェアハウスに全面リノベーションされた。アプは土地建物の取得検討段階から改修提案を行い、建物群の保存改修およびランドスケープデザイン全般にわたる設計監理を担当した。

日本館建物は1965年の築、原設計は郵政（通信）モダニズム建築を代表するひとり、小坂秀雄＋丸ノ内建築事務所である。その後も増築や小・大規模改修等が重ねられ、三角屋根の付加で外観は大きく変貌したが、一方で上層階の客室の基本モジュール（南面）が四周に増殖されていることが読み取れる。一連の改築・増築を担当したのも郵政建築OBの設計事務所であり、そこにオリジナルへの敬意が込められてきたのだろう。それが郵政モダニズムの建築スタイルを纏ったこの建物の特徴をいまに伝える由縁なのかも知れない。



改修されたウェルネスセンター中央のエントランス部



改修後の有料老人ホーム個室の一例、遮音間仕切り壁で分割して適度な広さを確保（計80室）



大浴場前ホールの断熱ガラスサッシに囲まれた休憩コーナーになり、中庭は人工芝広場に大きく変貌した。



改修後の1階デイサービスセンター、仕切壁を無くし、連続的に配置されたトップライトによって開放的な空間に様変わりした。



旧宿泊棟の1階広いエントランスホールはフィットネスクラブ（スポーツジム）に生まれ変わった。

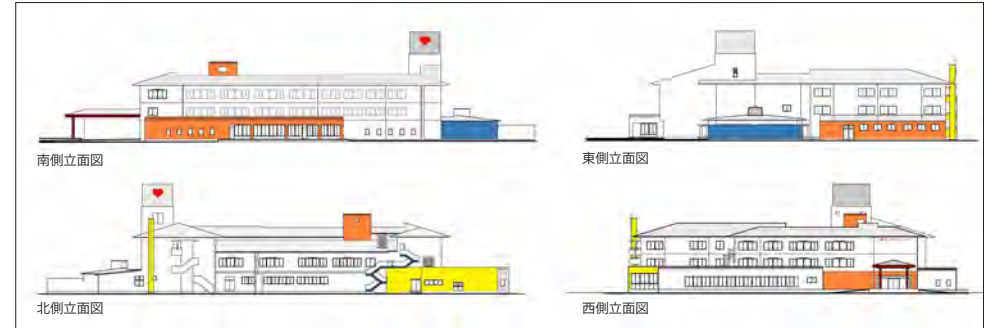
経緯 旧かんぼのやど・湯田改修活用提案書作成'20.9 / ウェルネスセンター中央および附属住居棟等全体基本設計'20.10～'21.4 / 住居棟改修実施設計'21.3～'21.4 / ウェルネスセンター中央改修実施設計'21.5～'22.1 / 同工事監理'22.2～'22.11
 参考・旧宿泊棟原建物：竣工年①1965.9・簡易保険福祉事業団「湯田簡易保険保養センター」として新築（当時の施設規模は宿泊・浴室棟の本館が2,790㎡、宿舍ほか付属棟6棟の410㎡）設計：小坂秀雄＋丸ノ内建築事務所 / ②'70.9・敷地東側に屋外プール施設・関連付属棟増設、設計：山田守建築設計事務所 / ③'73.2一部解体・増築（北棟）＋ポンプ室、設計：上浪剛＋構想建築設計研究所 / ④'76大規模模様替え・RC造3階建・2棟・設計：指宿真智雄＋建築デザイン事務所、⑤'81.3改築（西館・東館・南館・北館等全面に大屋根増設）設計：指宿真智雄＋建築デザイン事務所 / ⑥'85.8宿舍模様替え・RC造3階建・2棟・設計：指宿真智雄＋建築デザイン事務所、⑦'86昇降機増設、耐震診断実施 / ⑧'96.5外構大規模模様替え（屋外プールをゲートボール場、カラーリングコートに改修） / ⑨'2003日本郵政公社に移管、ゲートボール場等廃止、緑地に改修 / ⑩'07日本郵政（株）に移管 / ⑪'19社会福祉法人青藍会グループに売却

■山口・ウェルネスセンター中央・コンバージョン計画・設計監理（つづき）

■ウェルネスセンター中央（旧かんぼの宿泊棟→コンバージョン・老健施設ほか）

改修にあたっては、原形ファサードを損わず、個室数確保・断熱性能向上のために、旧食堂棟を小割つ旧客室を窓PGカバー工法方立付きで分割するなど、旧客室35室を80室に増設し、1階は間仕切りを無くし、広々としたデイルームやフィットネジム空間を確保した。

建物外観の1階と頂部の限定的なアクセントカラー着色の色彩計画は発注者側のデザイン担当者とのコラボレーションによるが、周囲のまちなみのなかで大きな存在感を有する建物壁面の分節化によるスケール感の軽減、そして「地域の世代間交流施設」としてのランドマーク性を発揮しているのではないだろうか。



■ハートレジデンスⅠ＋Ⅱ（旧住宅棟→リノベーション）

1972年築、かつての職員住宅（世帯者住宅棟・単身者住宅棟）の外観・構造のまま、青藍会グループの海外実習生用宿舎として、全面リノベーションとし、ハートレジデンスⅠ（旧世帯者住宅棟・3K）は各戸3室のシェアハウス（3層・計6戸／18室）、ハートレジデンスⅡ（旧単身者住宅棟）は1階に共用キッチン、シャワー室、洗濯室等を擁する11室（3層・3+4+4室）のシェアハウスに生まれ変わった。



ハートレジデンスⅠ 1階平面図



ハートレジデンスⅡ 1階平面図

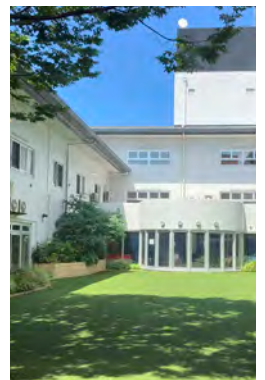


ハートレジデンスⅡ：生活感のある集合住宅の雰囲気が出されている

■ウェルネスセンター中央・敷地全体ランドスケープデザイン
 西側に車寄せ、来客用および施設自動車駐車場、東側に職員駐車場を確保し、敷地内樹木は既存樹を極力残しつつ、南庭は草地広場と築山・バスケット3on3コート・遊歩道、中庭は多目的人工芝広場、北庭にはミニゴルフ練習ネットと菜園など、敷地全体に多彩な外部空間を演出している。



南庭：東側築山頂部からウェルネスセンター中央と前面の草地広場を望む



中庭：多目的の人工芝広場に生まれ変わった

諸元 所在地：山口県山口市神田町1（湯田温泉） 敷地面積：13,344.01㎡、ウェルネスセンター中央・本館：RC造地上3階建・延床面積：6,132.61㎡、協力：エス・フォルム / 大内彰（構造）、総合設備設計（設備）、HorizonXX（BELS省エネ計算） / 施工（改修）：鴻池組（工期：'22/2～'11） / 外構工事：大林道路・四季の企画社（工期：'22/10～'11） / 実習生宿舎a（ハートレジデンスⅠ）：RC造地上3階建・延床面積：337.92㎡、実習生宿舎b（ハートレジデンスⅡ）：RC造地上3階建・延床面積：347.34㎡、施工（改修）：協和建設工業（工期：'21/5～'7） 担当：中野、清水、茅根、山本

■東御市行政中心ゾーン（舞台が丘地区）リノベーション計画

〔東御市〕 2009-14

長野県東部の浅間山麓に位置する東御市の市庁舎等公共施設群の集中する「舞台が丘地区」の再生プロジェクトである。新任の市長さんより、学歴として中野が庁内で進められていた市庁舎建替え等に関する相談を受け、コメントを求められたことに端を発する。既存建物計8棟および周囲を確認し、一部建替えはやむなしも、極力既存建物群を改修再利用を図られることを進言した。それを受けて整備構想策定公開型の提案プロポーザルが実施され、最終的にアブルチームが特定された(2009年)。

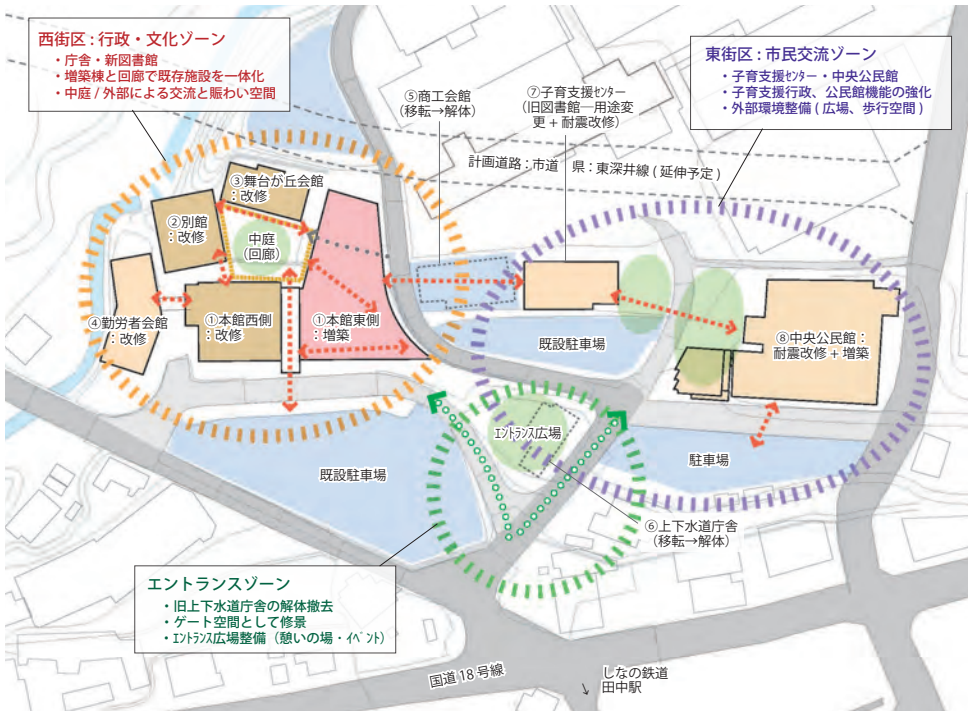
初年度は全体の基本構想の策定段階とし、あらためて既存建物群の事前調査資料を精査のうえ、各施設の改修・解体・移転の方針を確認し、それらを有機的につなぐ外部空間の充実も含む全体プログラムを作成した。

市庁舎は、耐震上の課題を有する東側低層部を解体し、北側部にも伸ばした3層の増築棟(庁舎+新図書館)を新築し、「通り抜け通路」、「中庭」を巡る「回廊」を新設することで、既存施設群の有機的連携を図る。とりわけ庁舎閉庁の週末等でもこれら公開空地は開放され、図書館利用や各種イベント利用などのにぎわいを創出する場として整備された(西街区:行政・文化ゾーン)。

舞台が丘地区の入り口に建つ旧上下水道庁舎の機能は改修後の勤労者会館1階に移転のうえ、解体し、日常利用やイベントなどのさまざまな活用可能なエントランス広場として生まれ変わった。この広場には市内に置かれている地元出身彫刻家・竹内不忘の作品5体が集められている(エントランスゾーン)。

庁舎東側の旧商工会館は解体とし、旧図書館は中央公民館内にあった子育て支援センターとして改修・転用、中央公民館は機能充実も踏るべく講義棟増築も含め全面改修となった(東街区:市民交流ゾーン)。

プロポーザルから5年後の2014年春完成を見た。



舞台が丘地区 全体構想図

経緯 東御市舞台が丘再開発基本構想09.8~11/東御市役所本庁舎増改築(図書館合築)基本設計'10.3~7/東御市役所本庁舎増改築(図書館合築)実施設計'10.9~11.3/舞台が丘整備実施設計'11.4~12.3/東御市庁舎等増改築工事監理'11.4~12.8/勤労者会館改修工事監理'12.8~13.3/中央公民館講義棟増築設計'12.10~12/場内整備実施設計'12.10~14.3/子育て支援センター工事監理'12.10~13.5/中央公民館改修工事監理'13.4~14.3



完成したエントランス広場から中央公民館を望む*

- 対象建物リスト・諸元
- 旧市庁舎(RC造地下1地上3・1970年築/延2,500㎡)
→ 東側低層部解体
本館 西側:改修 東側:庁舎増築+新図書館合築
 - 庁舎別館(S造地上4・92年築/1,598㎡)
→ 改修済
 - 舞台が丘会館(RC造地上2・88年築/649㎡)
→ 改修・新図書館と連結一体利用
 - 勤労者会館(RC造地上2・81年築/872㎡)
→ 改修
上記4棟をギャラリー、パティオ、コロネード等で連絡
 - 商工会館(RC造地上2・79年築/500㎡)
→ 解体・駐車場
 - 上下水道庁舎(RC造地上2・79年築/470㎡)
→ 解体・エントランス広場として整備
 - 旧図書館(S造地上2・81年築/630㎡)
→ 改修・新図書館として用途替え
 - 中央公民館(RC造一部S造地上3・79年築/2,976㎡)
→ 子育て支援センターを転出・改修+増築・講義棟

■東御市行政中心ゾーン（舞台が丘地区）リノベーション計画（つづき）

■東御市役所本庁舎増改築(図書館合築)基本・実施設計(第1期)



空間ダイアグラム:
通り抜け通路を背骨として
各施設を繋ぎ機能連携を図る

執務ゾーン
市民利用ゾーン



5つの建物群に囲まれた中庭(パティオ)―図書館から



中庭(パティオ)に沿って回廊(コロネード)が巡る



図書館3階一般開架閲覧室 閲覧コーナーから南側の眺望を見通す*



市庁舎エントランスコリドー*



改修後 庁舎南側全景 本館(既存)東側に増築*

改修前

諸元 所在地:長野県東御市 1期工事 敷地面積:22,879.0㎡ 延床面積:9,655.6㎡ 庁舎本館(東側)・新図書館:SRC造地下1階・地上3階4,031.6㎡/中庭回廊:S造地上1階84.0㎡/庁舎本館(西側):RC造地下1階・地上3階12,499.6㎡/庁舎別館:S造地上4階1,597.6㎡/舞台が丘会館:RC造地上2階649.1㎡ 協力:関建築+まち研究室(意匠)、ピー・ファーム(構造)、総合設備計画(設備)、フジキ積算(積算)、近田玲子デザイン事務所(照明デザイン) 施工:竹中工務店/撮影:*北嶋俊治 担当:中野、萩原、清水、佐々木、空間、大木、中山、長谷川

■東御市行政中心ゾーン（舞台が丘地区）リノベーション計画（つづき 2）

■旧図書館→子育て支援センターリノベーション/中央公民館リノベーション+増築基本・実施設計（第II期・第III期）



旧図書館を改修した子育て支援センター内観



中央公民館の増築部分（講義棟一正面）と改修された本館（改修）*



第II期・第III期工事 配置図



整備されたエントランス広場での催し物風景



舞台が丘地区 全体計画・立面図

諸元 Ⅱ期工事、勤労者会館：RC造地上2階 872.2㎡/子育て支援センター：S造地上2階 775.6㎡/中央公民館：RC造一部S造地上3階（改修+増築）3,543.3㎡/エントランス広場 930㎡/中央公民館駐車場 2,210㎡/子育て支援センター 駐車場 670㎡ 協力：関建築+まち研究室（意匠）、A&A 構造研究所（構造）、総合設備計画（設備）、近田玲子デザイン事務所（照明デザイン） 施工：竹花組、信州電気、7i1n1化'ing、竹花工業/撮影：*北嶋俊治
担当：中野、萩原、清水、佐々木、空間、大木、中山、長谷川

■東御市小学校長寿命化計画・小学校トイレ改修設計および小学校躯体調査 [東御市] 2016-24

■東御市小学校長寿命化計画

国の文部科学省が2013年から始まる全国の「公立小中学校施設の長寿命化計画制度」支援制度に基づく市内全小学校（5校）を対象とした建物実態調査および年次別長期修繕計画の策定業務である。全校が1974～81年築ながら耐震補強工事が完了も、設備改修も含めた段階計画の策定が急がれていた。とりわけ小学校は災害時の避難場所としての重要な役割も有し、かつ将来を担うべき子供たちが快適に学べる学校環境づくりも時代の要請となった。そのため検討作業は学校建築の泰斗である長澤悟氏（教育環境研究所理事長）の全面的な助言のもとで進められ、適宜、市内教育関係者、父兄等を対象としたヒアリングも兼ねた生涯学習講座も開催されている。

その後、長期修繕計画にもとづいて、随時各種の改修事業等が進行中にある。



東御市内小学校位置図

	Aランク	Bランク	Cランク
体育館 -概ね良好	田中小学校	地下 -全体的に傷、汚れが目立つが今後も使用可能	トイレ -全体的に傷、汚れが目立ち、臭気有り（換気不足）
家庭科室 -利用頻度の低い被服室、料理室を同室にしている	天井 -一部にシミ、補修跡有り	屋上廻り -一部に傷、汚れ、水溜り有り	道野小学校

市内小学校の現地調査記録（一部抜粋）

学校名	屋根	内部	便所	外壁	開口	外部	体育館	給食室	電気	給排水	空調	ICT	次回診断時期
田中小	B	B	D	B	C	B	A	B	B	C	C	E	2021
滋野小	C	B	D	B	C	B	B	B	B	C	C	E	2025
津津小	B	B	D	B	C	B	B	B	B	C	C	E	2029
和一小	B	B	D	B	C	B	B	B	C	C	C	E	2028
北御牧小	B	B	D	B	C	B	A	A	C	C	C	E	2026

市内5校の現地調査とヒアリングを照合した改修評価

■小学校トイレ改修設計監理

長寿命化計画の中で教職員・父兄の要望で、永年の課題であったトイレ改修を最優先し、国庫補助を受けて実現した。従来の「4K(臭い・汚い・暗い・怖い)」を解消し、現在の児童数にあった適正規模とし、段差解消によるユニバーサルデザインの実現、多機能トイレの設置、ゆとりの個室、断熱化・冬季暖房装置など、安心して利用出来る環境を整えた結果、それまで自宅に帰るまで我慢していた児童が、休憩時間や昼休みに積極的に利用するなど、健康上かつ学習意欲の向上などの効果が報告されている。

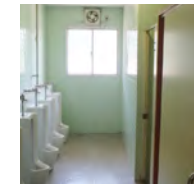


北御牧小のトイレ改修前

→手洗所の充実や、地産産材のカラマツを内装に使用するなど衛生面への配慮や心地よさの演出にも心がけている

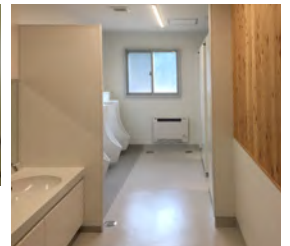


北御牧小のトイレ改修後

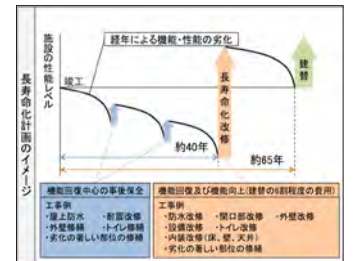


北御牧小のトイレ改修前

→機器更新に際し、段差解消のための乾式施工を採用し、配管スペース確保、冬季暖房器具設置などを行った



北御牧小のトイレ改修後



長寿命化のイメージ



生涯学習講座「これからの学校づくり」の光景

経緯 東御市立小学校長寿命化基本計画'16.9～17.12、田中小学校・滋野小学校トイレ改修工事実施設計'16.9～17.3、田中小学校・滋野小学校トイレ改修工事監理'17.3～17.10、津津小・和一小・北御牧小トイレ改修工事実施設計'17.5～18.3、和一小学校・北御牧小学校トイレ改修工事監理'18.5～18.11、津津小学校トイレ改修工事監理'19.7～19.12、市立田中小学校躯体調査業務'23.11～24.3

諸元 所在地：長野県東御市 調査対象面積：5校計10,328㎡ トイレ改修床面積：5校RC造計1,314.3㎡ 施工：北澤土建（田中小）・東建建設（滋野小）・共栄建設（和一小）・竹花組（北御牧小）・東部開発（津津小） 長寿命化計画・協力：長澤悟氏（教育環境研究所理事長） 24年躯体調査・協力：北澤土建
担当：中野、清水、山本

■湯の丸高原高地トレーニング施設整備構想～設計監理

[東御市 + 民間] 2014-19

■湯の丸高原高地トレーニング施設整備構想

東御市の北端、標高1750m級の湯の丸高原は上信越国立公園内の自然豊かなレクリエーション地として大学の寮や宿泊施設が立地して来たが、近年のスキー客減少とともに寮の廃止が続くなど多くの課題を抱えてきた。そこで隣接する小諸市、群馬県嬭恋村と共同でスポーツ振興のための準高地トレーニング施設整備を進めるべく、2014年に湯の丸高原一帯（東御市範囲）の基本構想策定プロポーザルでアブルが特定。全体構想からの策定から、専門家からなる高地トレーニング施設委員会、構想の改訂、2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて「湯の丸からセンターポールにの丸を！」のスローガンのもとで新規屋内体育施設（暫定屋内プール）および隣接地への民間出資によるアスリート食堂の基本計画をまとめ、両施設の設計監理を担当した。あわせて大学寮跡建物の改修提案（アドバイザー派遣一完成）も行った。



湯の丸高原位置図



湯の丸高原整備構想改訂版 2016

※当初構想案 2014 版をベースに陸上用高地トレーニング 400mトラック、テニスコートが追加されたもの

構想イメージスケッチの一部



経緯 湯の丸高原整備構想策定業務公募型プロポーザル(特定) 14.10 / 湯の丸高原整備構想策定業務'14.11～15.3 / 湯の丸高原高地トレーニング検討委員会助言(アドバイザー派遣)'15.6 / (仮称)湯の丸高原荘改修基本構想(アドバイザー派遣)'15.9 / 湯の丸高原屋内運動施設建設設計業務'17.10～18.3 / 同工事監理業務 18.4～19.10 / 湯の丸高原アスリート食堂設計監理業務'19.2～19.9 / 湯の丸スポーツサービス(株) 担当:中野、清水、大木、

■湯の丸高原高地トレーニング施設整備構想～設計監理(つづき)

[東御市] 2017-19

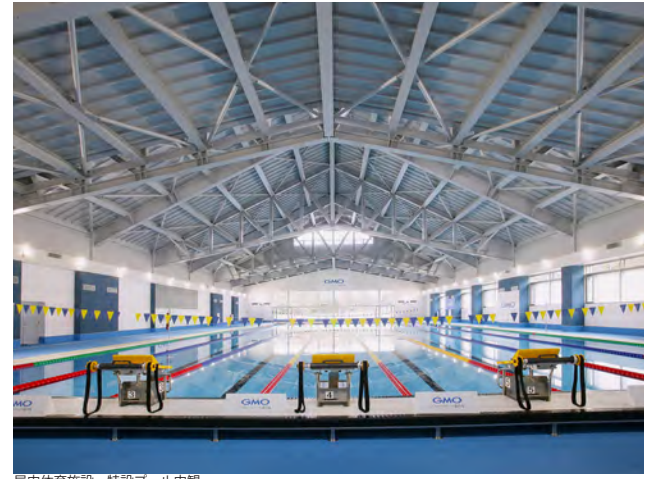
■GMOアスリートパーク湯の丸(湯の丸高原スポーツ交流施設)施設概要

- 全天候型 400mトラック:舗装・ポリウレタン舗装、1周 3レーンと直線路(100m)5レーン
 - 林間ジョギングコース(800m):路面は土やウッドチップ舗装 400mトラックの外周を周回するアッパダウンのある1周約800mのコース、
 - トレイルランニングコース(2,500m):スキー場内のアッパダウンやカーブのあるコース。有酸素トレーニングを行うことができる。
 - 屋内プール(50m・8レーン):国内最高地点の特設プールを含む屋内運動施設。8レーンの50mプールやトレーニングルーム、ミーティングルーム。
 - トレーニングルーム(湯の丸高原荘内):レジスタンストレーニングや有酸素トレーニングが行えるマシン設置、アスリートの傷害予防やコンディショニングをサポートする施設。
 - GMOアスリートパーク湯の丸ヴィレッジ(湯の丸高原荘):客室・1階洋室(バリアフリー)5、2階(3～6名)17、トレーニングルーム、ミーティングルーム、浴室、洗濯室ほか
 - 湯の丸アスリート食堂:アスリートを対象とした飲食施設、席数は屋内約80席とテラス席27席。
- ※●はアブルが設計・監理を担当。



■湯の丸高地トレーニング屋内体育施設(暫定プール) 設計監理

[東御市] 2017-19



屋内体育施設・特設プール内観



屋内体育施設・特設プール入口(外観)



屋内体育施設内から 400mトラック側を望む

■湯の丸アスリート食堂設計監理

[湯の丸スポーツサービス(株)] 2019



アスリート食堂内観



アスリート食堂外観

諸元 所在地:長野県東御市新張(国有地/上信越高原国立公園・浅間管理計画区域内)、屋内プール/敷地面積:10,028.04㎡ 延床面積:3,098.03㎡ S造地上2階 用途:水泳場 協力:NSPブランニング(建築計画)、エスフォルム(構造)、総合設備計画(設備) 施工:黒澤組・丸子小諸電気・第一設備 湯の丸アスリート食堂/敷地面積:3,452.46㎡ 延床面積:362.05㎡ 木造地上1階 用途:飲食施設 協力:エスフォルム(構造)、総合設備計画(設備) 施工:竹花組・信州電気・東部設備 担当:清水、山本、松浦 協力:ヨシダデザインワークショップ、角倉剛建築設計事務所

■旧門司税関保存活用・改修および再改修設計

[北九州市] 1991-2025

レンガ造の1912(明治45)年築の旧門司税関は1927(昭和2)年の新たな税関施設完成後、民間倉庫会社所有となり、1960年代以降は使用停止となり、半ば廃屋状態となっていた。後に市が行った調査で、明治期の大蔵省臨時建築部(妻木頼黄監修)設計と判明、保存修復を市は決定、国(当時・運輸省港湾局)の歴史的港湾環境創造事業の支援を受けて買戻し、そして門司港レトロ地区のシンボリック施設としての港湾緑地休憩所として活用することとなった。

アブルは建物構造調査から保存工法、復元活用検討、基本・実施設計・監理までを5か年にわたって担当した(監修・大野秀敏、構造設計・今川憲英 TIS&Partners)。改修工法検討に際しては検討委員会を設置(座長:片野博・九州芸術工科大学教授・当時)、すでに解体されていた両翼(レンガ造2階建て)の復元を決定するも、かつての平屋部は復元せずに外構に痕跡を留めることとなった。改修工事は2.5か年の工期を要し、1994年10月に竣工した。

その後、20年近く経過した2013年、レンガの目地部の劣化やひび割れ等補修、設備改修のための調査および設計監理を担当した(第一次改修)。また2024年には外部建具や屋根部等の改修の必要性から、アブルが調査専門会社の協力を得て、ドローンによる外装劣化および内部調査全般に関与し、屋根の葺き替え等を含む大規模修繕計画・設計を担当した('27年度工事予定)。



ハイマート展望台から旧門司税関・門司港駅方面を望む



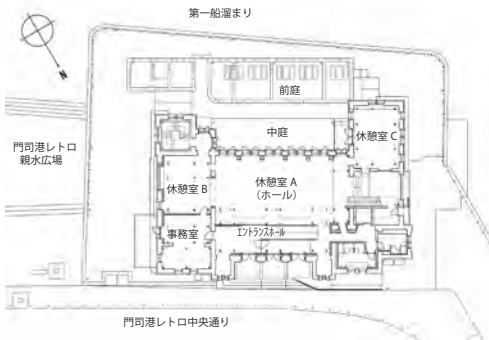
改修前の状況(1980年代)



改修後の状況(2000年代、喪失された翼が復元された)



改修後の外観(第一船溜まり側、両翼を復元も水際のかつての平屋部は外構でイメージ復元)



配置図・1階平面図



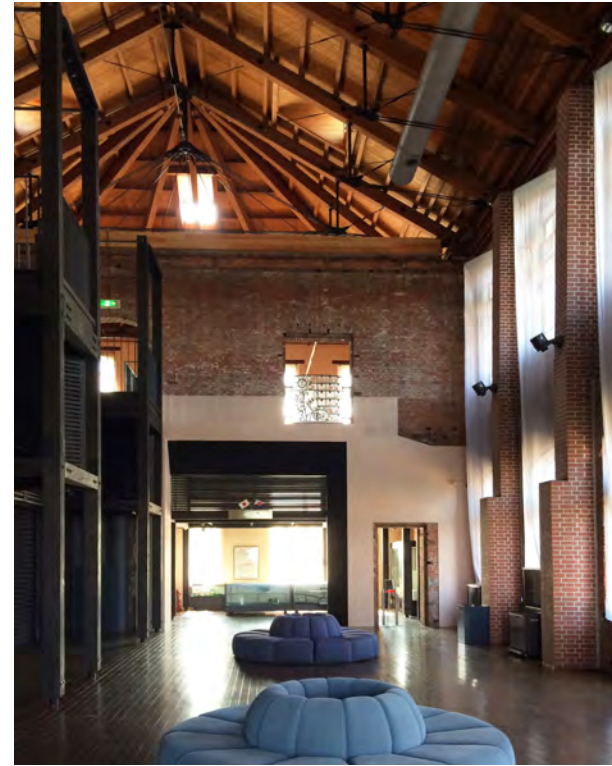
2階平面図



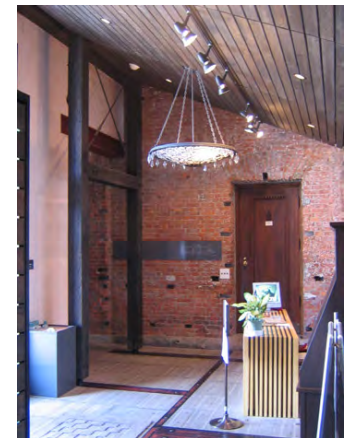
屋階平面図

経緯 環境西海岸旧門司税関保存工法検討委託91.11~92.3/旧門司税関修復保存基本実施設計'92.3~93.9/環境西海岸旧門司税関補修工事監理(第1期)'92.12~'93/環境西海岸旧門司税関改修工事監理その2(第2期)93.6~94.3/環境西海岸旧門司税関改修工事監理(その3)94.4~10/旧門司税関改修工事実施設計(第一次改修)'13.8~13.11/旧門司税関改修工事監理(第一次改修)'13.12~14.3/旧門司税関屋根等補修調査(第二次補修)23.9~24.3/旧門司税関屋根等補修工事実施設計24.6~25.3

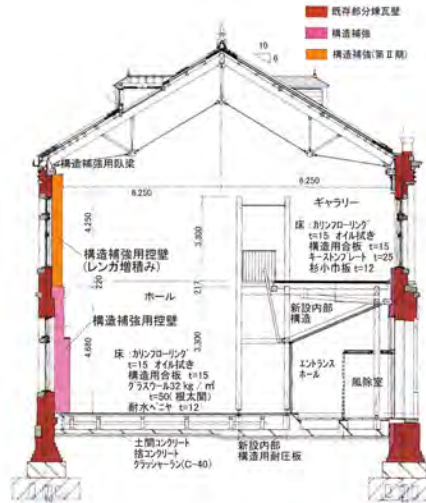
■旧門司税関保存活用・改修(つづき)



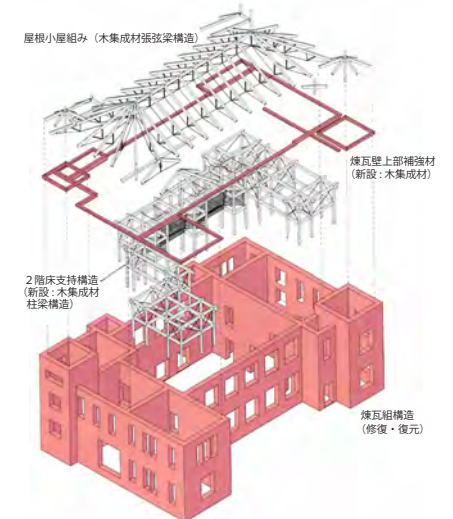
再改修後の内部ホール空間



改修後の内部空間



第一次改修後断面図



改修の際の内部構造概念図

諸元 発注:北九州市港湾局・建築局、構造階数:組石造(レガ-既存部、復元部)地上2階、塔屋1階、一部木造・RC造(新設内部架構)、延床面積:897.90㎡、主要用途:休憩所 原設計:大蔵省臨時建築部 設計協力:保存工法検討委員会(委員長・片野博・九州芸術工科大学教授・当時)、材料試験・調査-清水建設、診断・構造設計-TIS&PARTNERS(当初設計~第一次改修設計)、設備設計-新日本設備計画、家具-7'17'I'I(藤江和子) 施工:山田組(第1期工事)、清水建設(第2期工事) 拓建建設(第一次改修工事)、第二次改修のための調査協力:コスタック福岡支店 担当:萩原・清水、武藤、浦岡、吉田(本作品は、大野秀敏氏との共同作品)、第一次改修:中野・清水,第二次改修:中野・清水

■旧大連航路上屋保存活用・改修

[北九州市] 2004-08

旧大連航路上屋の保存活用計画が動き出したのが1998年、建築学会九州支部の調査により大熊喜邦の作と判明、保存活用が提案された。2003年よりアプルが検討作業を依頼され、①土地・建物は国施設とし、港湾緑地内の港湾関連施設、②建築の歴史的価値を尊重、可能な限り意匠と空間構成の復元、③市民開放を積極的に進め、賑わい・憩いに寄する建物に転換を提案し、展望休憩所やイベント施設、研修施設、としての活用が承認された。

2007年より調査設計が始まり、建物構造調査及び改修設計を担当した。しかし事業費面で設計が中断、その後2010年度より東畑建築事務所によって大幅な事業費圧縮方針も含めた実施設計完了、2013年に改修工事が竣工した。



改修前の大連航路上屋



上屋改修の外観イメージ（基本設計時提案）



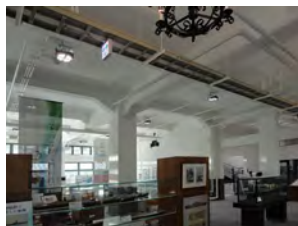
上屋改修の内観イメージ（基本設計時提案）



改修された大連航路上屋の東側正面玄関



改修前の北（海）側外観状況と改修方針検討



改修された大連航路上屋の1階展示ホール



改修された大連航路上屋の2階イベントホール



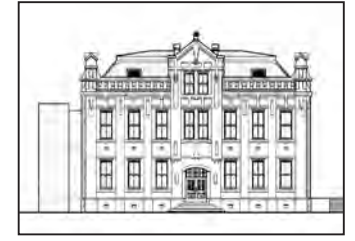
改修された2階屋外通路

経緯 西海岸地区港湾関連用地等活用検討調査'03.11～'04.3 / 門司港地区まちづくり総合支援基本計画'04.1～'04.3 / 旧大連航路上屋事業化調査'04.12～'05.3 / (仮称)西海岸1号上屋(旧大連航路上屋)改修工事基本設計'06.8～'08.3
 諸元 発注:北九州市 構造:主体構造-RC造 階数:平屋一部2階建て、建築面積:3983.26㎡、延床面積:4941.48㎡、建築年:1929(昭和4)年、改修年:2013(平成25年)、原設計:大蔵省営繕管財局(大熊喜邦)、原施工:大倉土木㈱、用途:事務所・倉庫 改修用途:集会場 設計協力:構造:TIS&Partners 設備:新日本設備計画、改修実施設計:東畑建築事務所

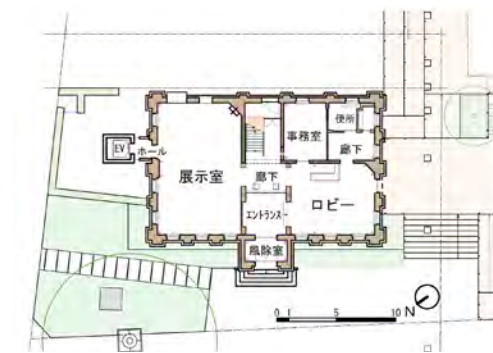
■門司麦酒煉瓦館保存活用・改修

[サッポロビール(株)・恵比寿ガーデンプレイス(株)] 2003-05

サッポロビール旧九州工場の移転に伴い、大正以来この地でビール製造の歴史を後世に残すため、鉦幸レンガ積みの本事務所をビール会社がビール資料館として整備し、北九州市に寄贈した。プロポーザルを経てアプルが特定され、保存修復とミュージアムへの活用のための設計監理を担当した。保存・改修工事にあたっては、耐震改修促進法に基づき、(財)日本建築防災協会により耐震診断と耐震補強工事の評価を得ている。既存の鉦幸レンガ躯体のエポキシ樹脂による補修と補強を行い、建物全体の外観については竣工当初の姿への復元に努め、中央の階段室やマンツルピース、天井に残る金属パネル等、歴史的意匠として価値の高い装飾は極力保存した。竣工後、市に引き渡され、「北九州市門司麦酒記念館(帝国麦酒門司工場事務所)」と命名された。



門司麦酒煉瓦館=旧事務所棟の正立面図



麦酒煉瓦館の1階平面図



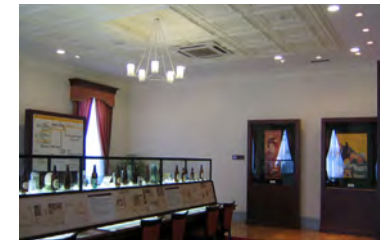
修復された正面外観



麦酒煉瓦館の屋上パラペット部の復元・補強



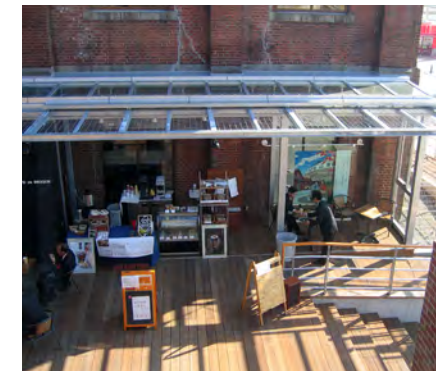
麦酒煉瓦館の1階ミュージアムショップ



麦酒煉瓦館の2階展示スペース



門司麦酒煉瓦館と醸造棟の外観



醸造棟との棟間広場のカフェ門司

経緯 サッポロビール旧九州工場本事務所記念施設設計者選定プロポーザル'02.6 / サッポロビール旧九州工場本事務所記念施設調査設計監理'02.7～'05.3
 諸元 所在地:北九州市門司区 原設計:関根要太郎(旧帝国麦酒事務所棟・1913【大正2】年竣工～サッポロビールへ)、構造:主体構造-組構造(鉦幸レンガ化粧積み)、屋根-鉄骨造 階数:地上2階、建築面積:231.91㎡ 延床面積:468.29㎡ 施工:若築建設㈱(レンガ補修協力-中国富士化工建設㈱)、目的:用途変更 大規模な模様替(主要構造の耐震補強工事) 協力 構造:TIS&Partners 設備:新日本設備計画 担当 萩原、吉田、萩尾、江口、松尾、矢島

[UR都市機構神奈川地域支社] 2006 - 10

神奈川県立芸術劇場 (KAAT) と NHK 横浜新放送会館の複合施設の設計及び都市デザイン業務のなかで敷地内に遺された横浜最古とされるレンガ造建物「旧山下居留地48番館 (神奈川県指定重要文化財指定)」は再開発施設建築物の附属棟扱いでの再改修の意匠提案、加えて本体工事の事前調査で発掘された「幕末～明治～大正期の建物遺構 (関東大震災倒壊当時の状態)」の保存のための設計変更等に関わる調整役をアプルが設計 JV 都市デザイン担当として関与した。

■旧山下居留地48番館保存再改修・展示パネル作成

この建物は2000 (平成12) 年に当該地に存在した外国人向け高級アパート・ヘルムハウス (RC造5階建・設計 JJ スガ-) の解体に先立つ調査で発見されたこの平屋建て附属棟が1883 (明治16) 年築で当初は商社の事務所兼住宅総2階建てレンガ造が、関東大震災で破損し、後の道路築造 (1929/昭和4年完了) に伴い、往時のほぼ1/8の規模に縮小されたことが判明した。翌2001年に県指定重要文化財指定とともに保存工事が行われ、鉄骨の臥梁で補強された寄棟屋根となっていた。再開発事業設計者選定プロポーザルに際し、当該建物の地区内保存方法の提案が求められていた。

当JVはそれを本館の意匠に合わせるべく、フラットなガラス屋根に変更し、内面のレンガ壁が外から見えるように再改修とした。あわせて鉄骨臥梁上に保存されていた往時の木製小屋組みトラスを展示し、かつての1階平面の大きさの痕跡を道路内に留めることを県警協議を経て実現した。



旧48番館創建当時とされる建物入口キーストーン



参考：再開発事業開始前の旧48番館



再開発事業後の旧48番館



旧48番館の内部とガラス屋根

旧横浜居留地48番館
Former YOKOHAMA Settlement No.48 Building

■現存する横浜最古の煉瓦造り建築

旧横浜居留地48番館は、調査の結果、明治16年(1883年)に建設されたモリソン商会の建物の遺構で、現存する横浜最古の煉瓦造建築物であることが分かりました。平成13年(2001年)には建築的・歴史的価値の重要性から神奈川県指定重要文化財に指定されています。

明治時代の銅版面に描かれている建物は、関東大震災により倒壊し、2階西側の妻壁と一階部分の煉瓦壁のみが残りました。そして震災復興事業の区画整理のなかで建物西側部分は取り壊され、玄関西側部は道路の境界で規模を縮小しています。その後昭和の時代には外国人用住宅として改修されながら、奇跡的に残ってきたものです。

平成22年(2010年)の改修で、切妻部の金属屋根をガラスに置き換えて採光を良くし、開口部は防火仕様がされています。道路には当初の建物外形線をコンクリート平床の色を変えた部分とアスファルト舗装の継ぎ目部分で、その範囲を表現しています。

■発掘調査の成果

48番館の発掘調査では、幕末から明治・大正時代の建物基礎などの遺構が多数発見されています。48番館の南側では、慶応2年(1866年)の横浜大火で焼けた建物などの瓦礫を廃棄した整穴が発見されています。この整穴からは赤く焼けた屋根瓦などのほか、西洋皿やジャム瓶・ガラス瓶などの遺物が出土しています。特にイギリス産のタイルは、少数ですが複数の種類が認められます。

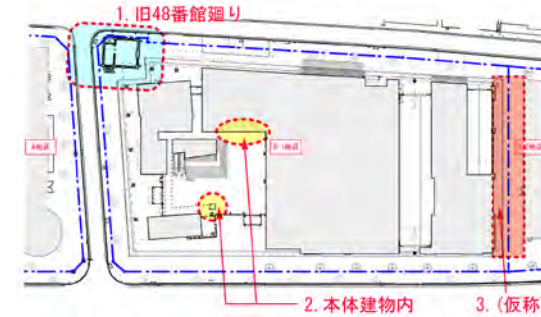
山下居留地 遺跡
Remains of Yamashita Foreign Settlement
山下居留地遺跡
開発事業(山下)共同調査
銅版転写交付申請書
発行2006年(第1)29号 (平)12-2

現地に掘出した旧横浜居留地48番館説明パネル

総論 横浜山下町地区B1街区施設建築物設計業務設計者選定公募型プロポーザル'06.3 / 横浜山下町地区B1街区施設建築物設計業務'06.3 ~ 12 (JV) / 横浜山下町地区B1街区施設建築物変更設計'08.3 ~ 09.6 (JV) / 横浜山下町地区B1街区施設建築物工事監理'08.2 ~ 10.4 (JV)

■歴史的遺構保存展示設計

香山アプルJVの設計チームの一員として居留地遺構である1883 (明治16) 年築とされる旧48番館の保存改修提案を行うとともに、工事に発掘された関東大震災の被災遺構 (煉瓦基礎ほか) の保存を地元有志 (山下居留地遺跡の価値を考える会、ほか) および関係機関との調整役を中野がJV側責任者として引き受け、保存展示設計を担当した。

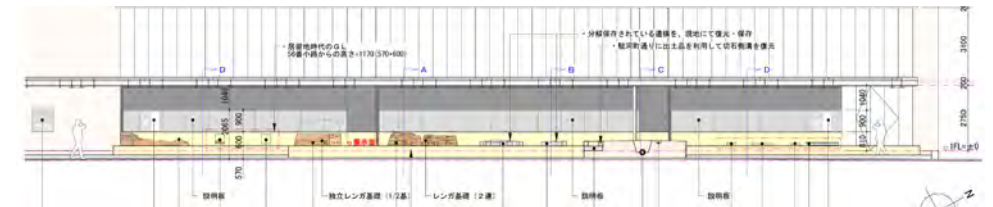


↑工事調査の際に発掘された遺構 (出典：かながわ考古学財団：横浜山下町地区第一種市街地再開発事業B1地区に伴う発掘成果パンフレット、2007.11.24)

←施設建築物敷地および本体建物1階ホール、仮称)56番小路での遺物等の展示位置



展示検討対象となったさまざまな遺物 (仮保存場所となった旧県立野庭高校にて撮影)



仮称)56番小路の遺構復元展示および説明パネル配置展開図



旧コッキング商会敷地から出土したレンガ塊



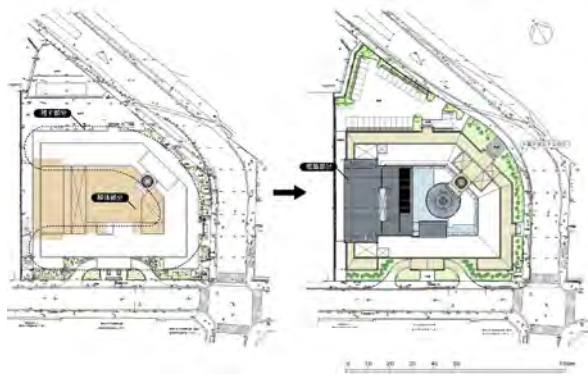
遺構復元展示と説明パネル (夜景)

諸元 発注：UR 都市機構神奈川地域支社 所在地：横浜市中区山下町 構造：S造+RC造+SRC造 階数：地下1階地上10階 建築面積：4,878.63㎡ 延床面積：20,307.63㎡ 意匠：香山・アプル総合・アプルデザイン設計共同体 構造：MUSA 研究所・構造計画研究所 設備：森村設計 音響：永田音響設計 照明：LPA 遺構展示意見交換会：山下居留地遺跡の価値を考える会、かながわ考古学財団、学識者ほか 担当：中野、萩原、加藤、池田、佐々木、柴田

横浜の歴史を刻む税関庁舎、海際に建つ尖塔を有する「クイーン」の愛称で親しまれる港ヨコハマのシンボルであり、その歴史的建物の保存・増築の設計者選定の公開プロポーザルコンペに参加、結果として特定された。コンペは2人の建築家(香山壽夫・大野秀敏両氏)と都市デザイナー(中野)の3人の協同によって、従来の建物の1.5倍の規模となる設計条件ながら、外観保全に加えて海側の視点場(横浜発祥の港・象の鼻や大さん橋、入港する船上)からの景観チェックを入念に行うなどの都市デザイン的アプローチが評価されたものとされる。

計画案は口の字の旧庁舎の西側を解体し、そこに高さを抑えた新築棟を建設するとともに、尖塔を挟んだ残りの口の字の旧建物の保全、すなわち「新旧の融合」を目指したもので、建物の外観意匠の尊重と修復、そして新しい税関機能の充足の両立を図りつつ、全体の建築コストの抑制、工期短縮をも目指したところに特徴がある。

実施設計段階は両建築家に委ねた形となったが、アプルはJVとして監理段階まで関わった。



解体部分と増築部分



改修後の横浜税関本関庁舎

経緯 横浜税関本関庁舎設計・設計者選定プロポーザル特定'00.6(香山・アプル設計共同体/香山壽夫建築研究所+アプル総合計画事務所JV)/横浜税関本関設計'00.7~'01.2/横浜税関本関平成13年度工事監理'01.7~'03.10/横浜税関本関平成14年度設計その2業務(現場設計変更)'02.5~'03.10



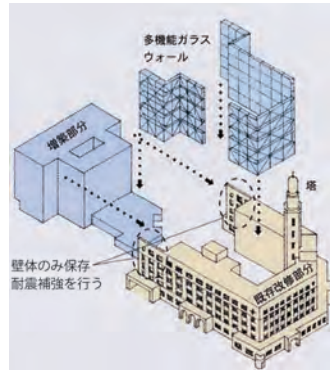
竣工当時の絵筆書より(大棧橋から税関庁舎をのぞむ。出典:横浜市立図書館所蔵)



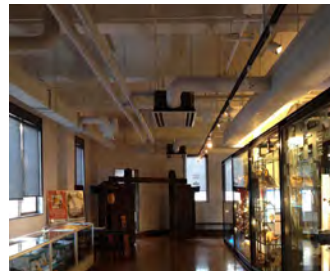
税関庁舎と赤レンガ倉庫・象の鼻パークの位置関係



プロポーザル時に提示した大棧橋からみえる税関庁舎本館既存部(改修)と増築の関係



改修後の横浜税関本関庁舎



税関展示室の内部空間

新旧の対比

増築部分の立面は、金属とガラスによる現代的なデザインとします。

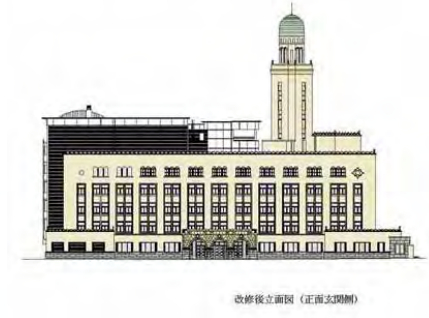
歴史の重みを感じさせる外観保存部分のファサードと、明るく軽やかな増築部分のファサードが、互いをひきたてあいながら、あらたな外観をかたちづけます。



●改修中観望型写真



前建時立面図



改修後立面図(正面改修側)

新旧の対比

歴史の継承

異国情緒のたどる税関本関庁舎には、その外観を特徴づけている数々のオーナメント(建築的装飾)があります。築後70年近くを経て老朽化したこれらのオーナメントを工法、素材にわたる詳細な調査結果をもとに現代の工法により復元、再生します。

その形状とともに創建時の設計思想を未来へと継承してゆきます。



前建時北立面図



改修後立面図詳細図

歴史の継承

諸元 発注:国土交通省関東地方整備局 所在地:横浜市中区海岸通 構造:[増築部]-S造、一部SRC造 [改修部]-SRC造 階数:地上7階、塔屋5階 敷地面積:7,202.7㎡ 建築面積:4,024.16㎡ 延床面積:15,955.32㎡ 用途:税関事務庁舎 原設計:大蔵省管轄管財局(大熊喜邦)、原施工:戸田組 改修設計:香山壽夫建築研究所+大野秀敏+アプル総合計画事務所 構造:MUSA研究所 設備:森村設計 造園:エキープ・エスバス 監理:国土交通省関東地方整備局横浜管轄事務所+香山・アプル設計共同体、設計期間:'00.7~'01.2 施工期間:'01.3~'03.7 担当:大野、中野、郷田、萩尾、粕谷、加藤、金子



街角側の外観



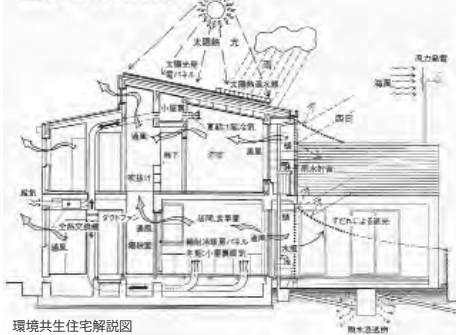
内観 (居間)



屋上の芝生と植栽 (DIY 施工)

テレビ朝日「素敵な宇宙船地球号」特集・エコ住宅に住みたいタイトルバック 2000.5.7

パッシブからアクティブまで一そらえ



- 環境共生型すまいの実践 (竣工時)
- ・夏季のすだれ (日射遮蔽)
 - ・自然通風・通気 (海風)
 - ・高気密高断熱
 - ・放射冷暖房
 - ・屋上緑化
 - ・太陽光発電
 - ・風力発電
 - ・雨水貯留・浸透

環境共生住宅解説図

諸元 所在地：千葉県浦安市、地域地区・第一種住居地域、敷地面積 175.3㎡、延床面積 156.09㎡、構造・階数・RC+木造混構造、施工・岡本工務店、他 (分離発注)、竣工・1997.8、構造・松本構造設計室 (松本年史)、設備設計協力・遠藤二夫・若松宏、掲載：日経7-71747 5-3 1999 受賞・千葉県建築文化賞 1999年環境部門賞 担当：中野、吉田、郷田

■東日本大震災液状化被災地域の復旧・支援活動



日経7-71747 4-22 2011 掲載

街区中の全戸が不同沈下 (被災直後調査の一例)

調査地点	調査日時	調査内容	調査結果
1	2011.3.11	調査地点	調査結果
2	2011.3.11	調査地点	調査結果
3	2011.3.11	調査地点	調査結果
4	2011.3.11	調査地点	調査結果
5	2011.3.11	調査地点	調査結果
6	2011.3.11	調査地点	調査結果
7	2011.3.11	調査地点	調査結果
8	2011.3.11	調査地点	調査結果
9	2011.3.11	調査地点	調査結果
10	2011.3.11	調査地点	調査結果
11	2011.3.11	調査地点	調査結果
12	2011.3.11	調査地点	調査結果
13	2011.3.11	調査地点	調査結果
14	2011.3.11	調査地点	調査結果
15	2011.3.11	調査地点	調査結果
16	2011.3.11	調査地点	調査結果
17	2011.3.11	調査地点	調査結果
18	2011.3.11	調査地点	調査結果
19	2011.3.11	調査地点	調査結果
20	2011.3.11	調査地点	調査結果

「環境共生住宅」で被災しなかったこと

インフラ断絶にどう備える

日経ホームビルダー 2011.6 掲載